



ぽっかぽか

関南病院新設部



脳神経内科開設のご案内



沖 良祐 先生

皆さん、こんにちは。脳神経内科を専門に内科全般の診療を担当しております沖 良祐（おき りょうすけ）です。私は徳島大学を卒業後、大阪の住友病院・北野病院での脳神経内科専門研修、徳島大学病院脳神経内科での勤務を経て、2020年度より当院非常勤、2021年度より常勤として勤務しております。

脳神経内科という診療科名になじみがない方もおられると思いますが、脳神経内科は中枢神経（脳や脊髄）、末梢神経、筋肉などに生じる病気を対象としており、脳神経内科で診療する症状や対象疾患は多岐にわたります。

脳神経内科が扱う主な症状

けいれん ふるえ・手足が勝手に動く もの忘れ 意識障害 しびれ・痛み 頭痛
身体の脱力 筋肉のやせ ろれつが回らない 歩行のふらつき 見えにくい めまい

脳神経内科が扱う主な疾患

脳梗塞 認知症 パーキンソン病 運動ニューロン疾患（ALSなど） 脊髄小脳変性症
てんかん 頭痛 神経免疫疾患（多発性硬化症、重症筋無力症など） 末梢神経障害

私自身はこれまで難病である筋萎縮性側索硬化症（ALS）など神経変性疾患を専門に、治療薬の開発研究に携わってきました。ALSではまだ病気を完全に治療できる薬が開発されておりませんが、引き続き治療薬の開発を行うとともに、少しでも患者さんの社会生活を維持し、不安や辛さを緩和できるよう診療を行っていきたいと思います。また、その他の神経疾患においても診断方法や治療法が日進月歩で発展している中で、最適な医療を提供できるよう、基幹病院と連携して取り組んでいきます。

高知県下では脳神経内科専門医の数がまだまだ不足していますが、当院では内科・外科・整形外科・麻酔科・救急・リハビリ・緩和ケアを実践してきた当院の強みを生かして、新たに急性期から慢性期まで広く脳神経内科の診療を行います。受診を希望される方はお気軽にご相談ください。

沖 良祐 先生紹介

オフの時は
さらさらヘア



■病院理念

1. 私たちは地域にとってよりよい医療・介護を目指し努力を続けます。
2. 患者様に信頼される技術と暖かいホスピタリティを提供することが私たちの目標です。
3. 私たちは医療人として楽しく働ける職場作りを目指します。

■病院基本方針

1. 我々は病気（Common Disease）を安全・快適に治療することを目標としています。
2. 我々は当院の専門分野での高い医療レベルを維持することに努めます。
3. 我々は地域の他の医療機関・施設との連携を大切にします。
4. 我々は個人の尊重を重んじ、人生の終末期に対して入院および在宅医療・介護を通じて取り組みます。



入退院支援の取り組みについて

令和2年度は高知県立大学の指導の元、高知県が取り組んでいる入退院支援事業に参加させてもらうことになりました。入退院支援とは、患者さんが病気や障害を理解し、退院後も継続するであろうと予測される問題について、入院前(外来)・入院中から地域・病院スタッフが連携し、患者さんが望む生活の場へと移行するプロセス全体の支援と言われています。当院には地域包括ケア病棟という病棟があり、急性期治療を終え、病状が安定してもすぐに在宅や施設へ退院するには不安がある、もう少しリハビリや経過観察が必要と思われる患者さんを受け入れ、在宅復帰支援を行う機能・役割を担っている病棟となります。今回、入退院支援の事業を進めるにあたり当院では地域包括ケア病棟をモデルケースとして取り組んで行くことになりました。地域包括ケア病棟は、入

院期間は60日以内という縛りがあります。その制限の中で、患者さんや御家族の意向を伺いながら、住み慣れた地域で切れ目のない支援が受けられるよう、いかに援助していくかがポイントとなります。そこで重要となってくるのが多職種協同です。院内に限らず、患者さんに関わる様々な職種が知識や情報を共有しながら、その人らしく生きていけるお手伝いができればと思っています。患者さんの声を聴きながら、地域で安心して住み続けられる仕組み作りにも今後病院全体で取り組んで行きたいと思っています。

地域包括ケア病棟看護師

岳田 麻里



入退院支援について リハビリから

今回、リハビリテーション部より選出され研修会に参加することになり入退院支援コーディネート能力研修の全過程を終了しました。

研修では入院から退院後の生活を考えた支援が充実するため情報共有の必要性や地域との連携など再確認する機会になりました。



研修終了後からは、当院にてZOOMを使用した会議も開催され、地域や多職種との話し合いが始まり、地域との意見交換もできたことで徐々に目指すべき姿に取り組み出したのではないかと感じています。

今後は研修参加者だけでなく全員で課題に取り組んでいき、より良い医療ができる病院作りを取り組んで行き、より良い医療ができる病院作りに励んでいきたいです。

理学療法士
作業療法士

森本 耕司
市川 弘恭



◆壁飾りシリーズ◆



西2階病棟の詰所前の壁には、患者様に季節を感じて頂きたく、スタッフ手作りの折り紙や写真で四季を表現しています。皆さんも是非、足を止めてご覧ください。

ぷち アクアリウム



最近少し寂しくなった水槽にグッピーが仲間入りしました。それも稚魚も沢山います。クラウンローチ(白)探してみてください。

グッピー (Poecilia reticulata)

全長は約5cmで、雄のほうが雌に比べて色も形も派手。卵胎生を行う。グッピーは小型の胎生メダカ類である。性転換を起こすことも確認されている。

■出典: フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』より。



函南

ちよっぴーに 自慢

ある日、正面玄関での会話

「このヒサシを見て！どこもつけないがよ…!!」

今まで何回も出入りした玄関、確かにこのヒサシのお蔭で雨にも濡れず患者様との散歩や夏にはセミの抜け殻を拾ったり…

どんなに貴重な建築なの？

ネットで探すと高知県内で一か所同じヒサシの病院がありました。



うちのまんこ

岳田さんちのモルモット達

Uchinoko Jiman



ただいま
ドライブピー
だよ



土遊び大好き
土の中から
こんにちは



チャイロが多いのがチャマルです。
チャマルはお笑い担当。オスなのに、オスのライアンのことが大好きで追いかけてまわります。

ライアンは白い長い毛の子です。
クールで1番オトナの男子。

キャサリンはタライの真ん中の女の子。
未っ子で、兄2人よりも1番ワガママな女の子で兄達の野菜も平気で奪いにいくよー。笑

七夕お茶会



今年も七夕の日がやってまいりました。新型コロナ禍のためご家族やご遺族・ボランティアの方々の参加を募らず、入院中の患者さんで、七夕お茶会として開催しました。

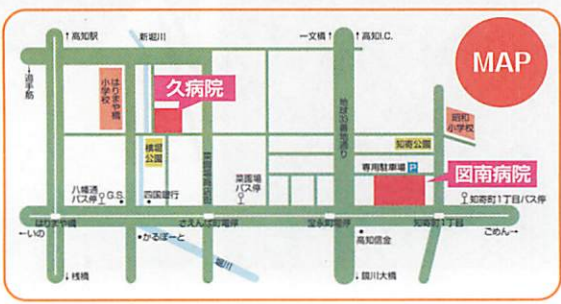
フルーツゼリー・カステラを、飲み物はミックスジュースとコーヒーをご用意させて頂きました。筐には患者さんや家族の方からのお願い事や感謝の言葉、風流な俳句などが書かれた短冊が飾られました。華やかな模様や可愛い形の干菓子、新鮮なミックスジュースに、普段は食事量の少ない患者さんも喜んで召し上がられ、明るい笑顔が見られました。

BGMは美空ひばりや昭和歌謡などを流しました。特に美空ひばりは患者さんに好評で、鼻歌も聴かれました。自室で過ごされている患者さんにはお菓子やジュースを持参。BGMが聞こえるようにドアを開放しました。

ほんの小さなお菓子や飲み物が、療養生活を頑張られている患者さんの小さな清涼剤になり、又、季節感を味わうことが出来たのではないかと思います。



発行 特定医療法人久会
発行 久南病院
編集 久南病院新聞部
編集長 高野 篤
高知市知寄町一五一五
電話 〇八八八二二二六



「美味しかった」「可愛いお菓子やね」「楽しかった」そんな患者さんの言葉と笑顔が、私達の宝物です。

緩和ケア病棟
大久保・近藤

